

# 新潟県栄養士会医療事業部

## 平成 30 年度春季研修会報告

日 時	平成 30 年 5 月 12 日 (土) 10:00~16:30
会 場	新潟ユニゾンプラザ 参加者数: 123 名
事業内容	<p>講演 「平成 30 年度診療報酬改定について」 (公社) 日本栄養士会医療事業部 常任企画運営委員 宮崎 純一 氏</p> <p>事例報告 「新潟市中央区にいがた市施設・病院の食事形態ファイル作成の経過報告」 総合リハビリテーションセンター みどり病院 栄養科 石月公美子氏</p> <p>事業報告 ・ 関東甲信越リーダー研修会報告 ・ 学会発表研究会事務局より</p> <p>特別講演① 「ライフスタイル改善の成果を導くエンパワーメントアプローチ」 栄養サポートネットワーク合同会社 代表 安達 美佐 先生</p> <p>特別講演② 「栄養相談体制の見直し～組織が承認する継続栄養相談導入のポイント～」 栄養サポートネットワーク合同会社 副代表 中田 恵津子 先生</p>
所 感	<p>午前の部は、まず平成 30 年度診療報酬改定のポイントについて講演があった。診療報酬改定の内容はなかなか読み解くことが難しい。今回の講演のようにポイントを絞って解説してもらえると「そういうことだったのか」と納得できスムーズに日々の業務に生かせると感じた。患者が移動する病院⇔施設⇔在宅の中で課題となっていたのが食事情報の共有である。</p> <p>今回の診療報酬改定で、栄養管理計画書や厚生労働省が発表している看護及び栄養管理に関する情報提供書に嚙下調整食の学会分類コードの記載が必須項目として取り上げられていることからもいかに食事情報の共有が重要視されているかが分かる。そして、みどり病院の石月氏から発表された取り組みがまさに今回の診療報酬改定を見越していたかのような内容であった。食事形態は統一した呼び名がないため多種多様である。そこで、呼び名を統一するのではなく、「あなたの病院ではどういう呼び名でどんな食事を出しているか公表してください」という考え方で情報の共有化を図ろうとしたこの取り組みは、食形態を公表する側の抵抗も比較的少ないように感じられた。自らの施設の食形態を整理するためと考え方を変えるとより取り組み易いのではと思えた。研修会後のアンケートでも取り組みに賛同する意見が多かった。</p>



特別講演では、昨年に引き続き、安達先生に根拠ある栄養指導のポイントを講義して頂いた。会員からは「アセスメントの実演があり、参考になった」という声が多かった。また中田先生からは栄養指導件数を増加させる為にはどうしたらよいのかといった事を先生の実体験からお話頂いた。最終目標が「栄養指導件数の増加」にならずにその先の「栄養指導件数の増加をすることで得られること」を見据えて経営側や現場の医師達へプレゼンを行わないと成功はしないと言うことがよく分かった。管理栄養士が生き残るために必要なことだと感じる。